
とある転生者の日常

圓maru

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある転生者の日常

【Nコード】

N0352Y

【作者名】

圓maru

【あらすじ】

とある転生者の変わらぬ一日。その一日が変わる日は来るのだろうか。

（前書き）

初投稿です。それでも良い人はどうぞ。

突然だが、俺は転生者である。

決して痛い人とかでは無く、そこら辺に居る人と何ら変わらない健全な元日本人である。

とある日にホームで突き飛ばされて通過して来た電車に撥ねられてしまいました。（笑）

巻き込まれ無かったらしいのでミンチにはならず済んだのだが。

その後、自称神に色々と数えきれない程の能力を貰ったのだが、自衛できるだけの力があればいいのでどーでもいい

おっと、自己紹介をしていなかったな。俺はシュン・ラント。

何故外国風の名前なのかというと、ミッドチルダという世界で住んでいるからである。

気づいている人もいるかと思うが、リリカルなのは世界である。

原作に関わる？最低限しか関わらないに決まっている。関わったって色々死亡フラグが立ちまくるだけだ。

それはさておき、只今散歩中である。此処に住み始めて1年位になるので、いつもの散歩道である。

「おっ、おっちゃんみっけ。」

「おお！シユンじゃねえか！今日も買って行くのか？」

ちなみに今話しているおっちゃんも散歩道の途中でいつも出店を出しているのである。

何故か売れ行きは上々なのである。ちなみに飲み物屋。

「今日はりんごで。」

此処の出店はオンボロなのだが結構美味しいんだ。

「毎度ありー。」

相変わらず下手な営業スマイルで返して来るおっちゃん。そこが人気の秘訣なのかもしれない。

所変わってとあるレストラン。昼飯の真っ最中である。

時間が早い？　これが俺の日常だ。

ちなみに、此処のレストランは大通りの前にあるので今の時間帯は結構混むのだ。

此処の客にはおもしろいネタを持って来るのでこれを盗み聞きするのも俺の日常である。

「有難うございましたー。」

聞き慣れた店員の声を聞きながら店を出る。

此処の通りはさっきも言った通り人が多い。

だから、何時原作キャラと鉢合わせるかかわからないので何時も神経を尖らせている。

まあ、これはこれでいい修行になるからいいんだが。

おっ。今日はティアナか。珍しくスバルが居ない。
怪しまれないようにトンスラしますか。

あ ばよ。

こうして今日と言つ名の一日が過ぎて行く。

(後書き)

出来がビミョー。

こんなんで良いのかなあ？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0352y/>

とある転生者の日常

2011年11月14日22時20分発行